

# ポルトガル語を履修する理由

二井 紀美子  
(愛知教育大学外国語教育講座)

## Reasons for choosing Portuguese

Kimiko Nii  
( Department of Foreign Languages, Aichi University of Education )

**要約：**愛知教育大学において 2010 年度より選択必修外国語に加わったポルトガル語の 2011 年度履修者の選択理由を調査した結果、「将来に役立つ」という実利的な動機が高いことや、家族等の周りの人々によってその動機が強化されていることが明らかとなった。

**キーワード：**ポルトガル語、選択必修外国語

### 1. 愛知教育大学におけるポルトガル語受講状況

愛知教育大学では、2010 年度からポルトガル語が選択必修外国語の一つに加わり、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ポルトガル語の中から 2 言語を選択することになった。これに先立ち、2009 年 6 月に教務課が一年生を対象に、選択必修外国語にポルトガル語があったら履修したいかどうかの希望調査を行ったところ、回答者数 844 人（在籍者総数 963 人）のうち、184 人のポルトガル語選択の希望があった。その内訳は、表 1 の通りである。

表 1 2009 年ポルトガル語履修希望調査(教務課調べ)

	在籍者数	回答者数	ポルトガル語希望者数(うち第一外国語として選択した者)
幼児教育選修	19	19	3 (0)
教育科学選修・専攻	35	32	9 (0)
情報選修・専攻	22	19	7 (2)
国語選修・国語・書道専攻	77	73	28 (4)
社会選修・専攻	87	81	20 (3)
数学選修・専攻	85	68	14 (1)
理科選修・専攻	100	50	10 (1)
音楽選修・専攻	33	26	1 (0)
美術選修・専攻	30	32	5 (0)
保健体育選修・専攻	68	63	14 (4)
家庭選修・専攻	42	37	7 (1)
技術専攻	13	10	3 (0)
英語選修・専攻	26	26	9 (1)
特別支援学校課程	27	28	9 (1)
養護教諭課程	45	45	7 (0)
国際文化コース	75	68	13 (3)
日本語教育コース	22	21	8 (0)
臨床福祉心理コース	22	21	2 (1)
造形文化コース	37	35	5 (0)
情報科学コース	42	35	5 (1)
自然科学コース	56	55	5 (1)
合 計	963	844	184 (24)

しかし、2010 年度のポルトガル語選択必修化以降、実際にポルトガル語を選択した者は、80 人前後で推移している。なぜ、実際にポルトガル語を履修選択する者が、2009 年 6 月の学生希望調査

の半数に満たないのだろうか。

これには、履修選択の希望を出す時期が大学入学以前であることが関係していると考えられる。愛知県は、ブラジル人が最も多く居住する県であり、学校においても日本語指導を指導が必要な外国人児童生徒の在籍者数が全国一であり、その半数以上をポルトガル語話者が占める（図 1）。このような状況を受けて、本学でも土曜日本語教室をはじめさまざまな外国人向け学習支援が行われており、教室の内外で外国人児童生徒の話を耳にする機会が多い。つまり、本学は、これまで外国人との接点が全くなかった学生でも、ブラジル人児童生徒をはじめとする外国人への学習支援に関心を持ちやすい環境にあるといえる。このことが、在籍学生を対象に行った 2009 年のポルトガル語履修希望調査の結果に反映しているのではないだろうか。反対に、大学入学前には、このような地域や学校での外国人児童生徒の多さ（特にポルトガル語のニーズ）が十分に理解されていないので、ポルトガル語を選択する動機付けが弱いのではないと思われる。

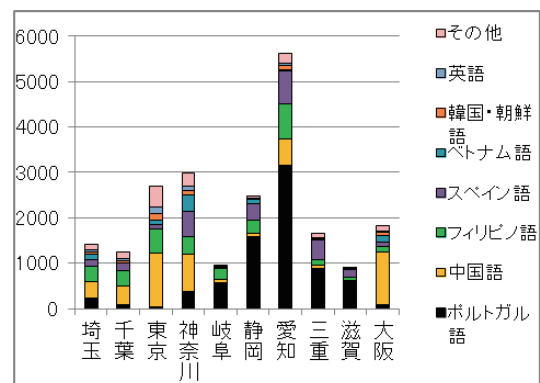


図 1 日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別在籍状況(都道府県別・上位 10 県)

そこで、本稿では、実際にポルトガル語を選択した学生の履修動機・理由を把握し、その後の授業の参考にするために、2011 年度前期開講の「ポルトガル I」の履修者に対して行ったアンケート調査を基に考察したい。

まず、2011 年度のポルトガル語の履修状況について、概観しておきたい（表 2）。2011 年度の場合、「ポルトガル語 I」は、水曜 1 限、水曜 2 限、木曜 1 限に 1 クラスずつ開講されており、受講者の総数は、100 人であった。筆者の担当した水曜 1 限、水曜 2 限の受講者（合計 86 人）のうち、一年生は 83 人、二年生は 3 人であった。1 年生は選択必修科目として受講しており、2 年生は自由科目としての受講であった。また、本学非常勤講師の富松エミ氏担当の木曜 1 限の受講者 14 人は全員 1 年生であった。

表 2 2011 年度ポルトガル語受講者数

	水曜1限2限受講者		木曜1限 受講者
	1年生	2年生	
幼児教育選修	2		
教育科学選修・専攻	9		
情報選修・専攻	0		
国語選修・国語・書道専攻	3		
社会選修・専攻	12		
数学選修・専攻	9		
理科選修・専攻			6
音楽選修・専攻	0		
美術選修・専攻			4
保健体育選修・専攻	12		
家庭選修・専攻	4		
技術専攻	3		
英語選修・専攻	6		
特別支援学校課程	6		
養護教諭課程	6		
国際文化コース	5	1	
日本語教育コース		2	2
臨床福祉心理コース	3		
造形文化コース	1		
情報科学コース	2		
自然科学コース			2
合 計	83	3	14

## 2. アンケート調査の概要と結果

筆者担当の水曜 1 限・2 限の受講者 85 人(欠席 1 人除く)を対象に、2011 年 4 月の初回の授業時に、アンケート調査を行った。回答者数は、水曜 1 限・2 限の受講者の計 85 人であった。そのポルトガル語受講者アンケート調査項目には、「英語の好き嫌い」「英語以外の外国語の学習歴」なども含まれるが、ここでは、履修理由に直結する「ポル

トガル語を選択した理由」「ポルトガル語を学んで実際に使ってみたいか」の 2 項目について、結果を報告する。

### (1) ポルトガル語を選択した理由

「ポルトガル語を履修選択した理由はなぜですか？（当てはまるものに丸を付けてください。複数可）」結果は、表 3 の通りである。全体の 76% にあたる 65 人が、選択理由として「イ ポルトガル語を覚えると将来役に立つと思うから」を選んでおり、またそのうちの約 3 分の 1 (21 人) が「エ 家族・友人・学校の先生など他の人に薦められたから」にも丸をつけていた。「エ」を単独で選んだ者や、「イ」以外の回答と合わせて「エ」を選んだものはいなかった。このことから、ポルトガル語の習得が将来何らかの形で役に立つという実用的な目的で履修選択した者がほとんどであることと、その選択動機が家族等の周囲の人々によって補強されたことが分かる。

表 3 ポルトガル語を選択した理由(複数回答あり)

ポルトガル語を履修選択した理由はなぜですか？（当てはまるものに丸を付けてください。複数可）	回答数
ア ブラジルに興味があったから	9
イ ポルトガル語を覚えると将来役に立つと思うから	65
ウ この授業ではポルトガル語以外にもブラジルについての知識を深められると思ったから	6
エ 家族・友人・学校の先生など他の人に薦められたから	21
オ 他の選択外国語よりも簡単だと思ったから	4
カ 今度ワールドカップやオリンピックがブラジルであるから	6
キ その他(自由記述)	16
・愛知にはブラジル人が多いから(2 人)	
・スペイン語と似ているらしいから(1 人)	
・友人(家族)にブラジル人がいるから(2 人)	
・とる人が少なそうだったから(1 人)	
・姉妹が学んでいた外国語とは違う言語を学びたかったから(1 人)	
・姉妹がポルトガル語を学んでいたから(1 人)	
・南米を旅行するのが夢だから(1 人)	
他	

## (2) ポルトガル語を学んで実際に使ってみたいか

先の履修選択理由として「ポルトガル語を覚えると将来役立つと思うから」という回答が最も多かったことに関連して、では実際にどのような場面で使ってみたいと考えているのかを調べてみた。その結果は、表4のとおりである。ほとんどの学生が「機会があれば使ってみたい」と回答しており、半数が将来教員になった時に使いたいと答えた。また、就職した後だけではなく、近所のスーパーや電車の中など地域でブラジルの人々と交流する機会があれば使いたいという希望も全体の約4分の1に相当する19人に上った。

表4 ポルトガル語の使用希望と使用場面

ポルトガル語を学んで実際に使ってみたいと思いますか。	回答数
ア 使ってみたいとは思わない	5
イ 機会があれば使ってみたい	79
ウ 今すでにすぐに使わねばならない状況にある	1
<p>[イとウに丸をつけた人へ 具体的にどんな時・どんな所で使いたいですか。(複数回答あり)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員になった時、教室で外国人の子どもを指導する時 (42人)</li> <li>(ブラジル人の子どもや保護者とコミュニケーションをとる、他)</li> <li>・地域でブラジル人と交流する時 (19人)</li> <li>(近所のスーパーで話しかけたい。電車の中で話したい。道を尋ねられたときにコミュニケーションをとりたい。他)</li> <li>・ワールドカップの時(6人)</li> <li>・海外旅行する時(6人)</li> <li>・職場(学校以外)で(外国人とうまく対応するため)(4人)</li> <li>・日本語支援をする時(1人)</li> <li>・サッカーを学ぶ時(1人)</li> </ul> <p style="text-align: right;">他</p>	

## 3. 考察

このアンケートの結果から、ポルトガル語履修を選択した者のおよそ4分の3は、ポルトガル語の習得が将来に役立つと考えており、具体的に教員として働く際に子どもとのコミュニケーションを図るためにポルトガル語を使用したいと考える者も受講者の約半数に上ることが分かった。そのほかにも、地域でブラジル人と交流する時にポルトガル語を使いたいという声もあることから、ポ

ルトガル語を選択した者の多くは、大学入学以前に、この地域にブラジル人が多く居住し、学校をはじめとするさまざまな場面でポルトガル語を使用する機会があることをすでに知っていたことがわかる。つまり、言い換えれば、ポルトガル語の地域ニーズを理解した上で選択した者が大半なのである。その反対に、ブラジルやポルトガルといった外国への漠然とした憧れに基づく選択は極めて少なかった。

このように、多くの学生は実利的な理由によってポルトガル語を選択しているといえる。この結果から、ポルトガル語の履修者を増やすためには、愛知県の地域事情(図1に示されたブラジル人児童生徒の多さと、学校や地域社会におけるポルトガル語ニーズの高さ)を広く周知することが有効であると思われる。特に、学生本人だけではなく、保護者や高校教員等の周囲の人物に、公立学校における外国人児童生徒教育事情を知ってもらうことが、延いてはポルトガル語履修動機を高めることにつながるが今回の結果から予想された。

その一方で、国内の外国人児童生徒教育には興味を示さないものの、サッカーに関心を持っている学生が、ポルトガル語に関心を持っていることが分かった。特に2014年のサッカーワールドカップや、2016年のオリンピックがブラジルで開催されることになっていることも、今後(一時的ではあるかもしれないが)ポルトガル語への関心を高める一因となりうるだろう。

また、2015年度からは、共通科目の新カリキュラムが始まる。外国語は、これまでの第一外国語・第二外国語選択ではなく、「英語」と「初習外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・ポルトガル語の中から1つ選択)」となる。それに伴い、初習外国語の選択希望は大学入学後の1年生前期に提出し、履修開始も1年生後期からになる。本調査の結果を踏まえ、これまでブラジル人と接点のなかった学生にも関心を持ってもらうために、選択希望調査の前にポルトガル語のニーズや在日外国人事情などを伝える説明会などを開くことで、履修希望者が増えることを期待したい。

そして、受講生の関心や希望に応えるために、授業においては、文法や一般的な日常会話能力の定着を図るだけではなく、学校で使われる会話や単語を充実させることや、サッカーで使用する言葉等を取り入れることで、履修生の満足度を高めることができると思われる。この結果を授業に活かしていきたい。